人づくりと米づくり

JA甲賀郡　常勤監事　木下純一

「人づくり」とは、つまるところ「米づくり」と同じだとつくづく思う。

「米づくり」に大切なのは、太陽と水と土であるが、「人づくり」も、この３つの条件が必要である。

まず太陽である。太陽の光のように、農協のビジョンと改革の目標が明確に示されるとともに、その改革を担う職員像についても具体的に描かれていること。そして太陽の熱のように、経営トップが期待する職員像の育成に向けて積極的に取り組む意欲と姿勢を示していること。もちろん教育研修に必要な予算措置は、惜しむことなく確保していることである。「人づくり」にとって、必要不可欠な第１の条件は、この太陽の光（理想）と熱（情熱）である。吉田松陰は、短い生涯を、理想と情熱を賭けて「松下村塾」を主宰し、幕末維新を担う幾多の俊傑を輩出した。

次に大切なのは、水である。いつも根を潤し、茎から穂へと吸いあげられていく水に恵まれてこそ、稲が日々成長していくように、「人づくり」にとっても、人の心にみずみずしい気概を育み、人と人の心をつないで澱（よど）みなく流れていく、ヒューマンリレーションという水利系が必要である。

農協で不祥事が起こると、その原因に「風通しの悪い職場環境」があげられる。企業の製造現場でも、短期的な成果主義の行き過ぎや、正社員の削減と派遣社員の活用による職場での一体感の喪失から、コミュニケーションが途絶え、品質管理面で変調が生じつつあることが報告されている。

ヒューマンリレーション、すなわち職員個々が自発的に能力を発揮し、しかも全体で成果をあげるために結束し、協力しあって果敢に挑戦していくこと、さらに、そのチーム力のなかで職員個々が鍛えられ育成されていくこと、こうした個と全体を循環する豊かな水利系が「人づくり」の第２の条件である。

最後に大切なのは、土である。「米づくり」は「土づくり」ともいわれる。「年月かけてつくり上げた田の土は非常に美しい。手ざわりも羽二重のような感触です。そいいう田に温度計を入れてみると、地温が高い。つまり温かい土なんです。一握りの土に十億とか十数億とかいうたくさんの微生物が、生きては死に、また生まれ返って、目に見えない豊饒の世界をつくり出している。」（『文化としての田んぼ』星寛治）こうした豊饒な土壌のなかで、稲が生育していくように、「人づくり」もまた、その組織で長年培われ耕されてきた風土（土）に左右される。

したがって豊饒で強固な組織風土、すなわち結果が出るまで粘り強く努力を続け、決してギブアップしない。結果が出ても緩むことなく、さらに新たな目標に向かって挑戦し続ける耐性の強い肥沃な土づくりこそ、「人づくり」の第３の条件である。

「人づくり」は「米づくり」と同じ、太陽と水と土の３条件が必要だと、つくづく思う。

（きのした　じゅんいち）

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。